



里山の再生

プロジェクト「石坂の森」

持続可能な里山への挑戦

里山とは？

辞書を引くと「里山」とは、「人里近くにあつて、その土地に住んでいる人と暮らしに結びついている山・山林」であります。

昔は、薪や山菜の採取、落ち葉などを堆肥にするなど、燃料、肥料、食料などを得るため、適度な人間の干渉と管理により、動植物が増え、豊かな生態系を保持し、生物多様性を保全する場になっていました。里山は、長い時間をかけて人々が自然と寄り添いながら作り上げてきたものでした。

しかし、戦後の高度経済成長とともに、薪や炭などが燃料として使われることが少なくなるなど、産業構造や生活様式などが急激に変化したこともあり、里山の自然資源を循環する必要が少なくな

り、里山を管理する人も減ってしまいました。

このため、鳩山町に限らず里山の環境を維持していくことが難しくなってきました。

今回の特集では、里山の恵みを次の世代に伝えるため、「石坂の森」を中心に、持続可能な里山について考えていきます。

石坂の森とは？

私たちが暮らす鳩山町は、首都圏50キロ圏内にありながら、豊かな自然にあふれる町です。

町では、令和5年度に転入者119人に対して転入先を決める際の決め手になった理由をお聞きしました。このうち約4人に1人（29人）が「鳩山町の自然が豊かなところ」と答えており、転入理由のトップ3に入っています。

自然といえば、町内には、人気の散策スポットとして、町の北東に位置する里山である「石坂の森」があります。コナラやクスギ、ヤマザクラを優占とする約40ヘクタールの森林地帯となっており、現在、町内外からたくさんの方が散策に来ており、隠れた人気スポットになっています。

しかし、平成15年頃は、木が生い茂り、公道や林道を覆い、歩行

も困難な状態でした。

平成16年3月に日本新都市開発株式会社の特別清算に伴い、山村学園短期大学西側の約40ヘクタールの森林を町で取得しました。町有林（一部民地あり）となったことで、町では大切な地域資源の里山として保全し、活用することを検討してきました。

このような中、「NPO法人里山環境プロジェクト・はとやま」が平成17年に設立され、町からの業務委託を受け、石坂の森の保全・管理を行ってきました。主な活動は、森林内の下刈りや散策道の整備、希少動植物の保護、獣害対策を実施しています。

身近にある素晴らしい自然を知って、触れて、楽しんで欲しい、そんな思いで活動しています。

さらに、町では平成18年度から埼玉県の補助制度なども活用し、自然環境を活かした活動広場や遊歩道、駐車場、案内板などを整備しました。

緑に囲まれた私たちの町には、希少な動植物がたくさんいて、豊かな生態系に恵まれています。この自然は、次代に引き継ぐべき大切な財産です。この里山を守り続けているNPO法人里山環境プロジェクト・はとやまの皆さんにお話を聞きました。➡

石坂の森でした。

森林公園のように広大な自然公園でもなくて、低山登山のように力を込める場所でもなく、気軽に行けてリフレッシュできる場所であることが魅力だと思います。

見山 石坂の森に限らず、ただ森や里山というところにもあります。では何が魅力かと考えた時に、鳩山ニュータウンを取り囲むように石坂の森があることに可能性を感じています。

数年前に大学院に通い、鳩山ニュータウンの活性化をテーマに研究しました。その時から思い描いていたのは、ニュータウンという整って暮らしやすいという街並みがありながら、森と一体となった生活です。アメリカに都市と農村を融合させたサステナブルコミュニティとして世界的に注目されている町があります。鳩山町も、そこに森とつながり、森の恵み、みんなが森に少しづつ関わりをもつて、森をみんなが育んでいくという形ができたと思います。

石坂の森の良いところとして、自然を楽しむ、親しむ、やすらぐ場所という点はもちろんあるし、活かしていくべきところですが、生活にとって必要な場所という認識を強化していければいいなと思っています。➡

「石坂の森」で
持続可能な里山を考える！

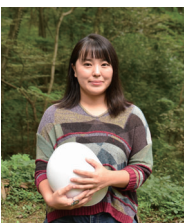
里山を
知ること
楽しむこと
守り続けること



NPO代表理事
鈴木伸さん



NPO副代表理事
清水 象次郎さん



爬虫類が大好き！
山谷 真由美さん



薪ストーブオーナー
立花 光司さん



NPO設立メンバー
富田 恵理子さん



NTに住み始めて20年
見山 公一さん



コロナをきっかけにUターン
小峰 千弘さん



NPO 法人
里山環境プロジェクト・はとやま

平成 17 年 12 月に設立。
町から「保全業務委託」を受け、石坂の森の保全・管理活動を実施している。



里山を
知ること

公園化しすぎでない森

鈴木(司会) 石坂の森の伝えたい魅力を教えてください。

富田 私は東北出身なので育った環境が落葉樹林でした。初めて石坂の森に来た時、コナラやクヌギがあつて、その下にスミレが咲き、間にヤマザクラが咲くのがとても魅力的だと感じました。カエルの声が聞こえてきたり、さまざまな種類の蝶々や蜚が飛んでいました。生き物の世界がある魅力的な森だと思いました。

山谷 一言でいうと公園化しすぎでない森。石坂の森は一般的な公園とは違い、人工的なものは歩道やベンチテーブルしかありませんが、親子で来た時に、きちんと歩ける道があり、野鳥や動植物がいます。公園化しすぎでない森だと思いました。

小峰 私はコロナをきっかけに地元に戻りましたが、人ごみから離れた、自然の中で散歩してリフレッシュしたいなと思ったときに、身近にあったのが、➡



里山を
楽しむこと

里山文化を次世代へ

鈴木(司会) 「遊びの場・学びの場」としては、何が考えられるでしょうか。

山谷 私は、爬虫類が大好きなんです。NPOの調査でサンショウウオの卵を人生で初めて見て、こんな身近にあるんだとすごく感動しました。

ペットショップ店員として働いていた時、お客さんに子どもが捕まえてきたアマガエルの飼育方法を聞かれたことがあります。子どもの遊びや学びも大切ですが、まずは大人に自然を楽しんでもらうことが必要だと思いました。そのためのイベントをNPOや町で今以上に実施していきたいです。

見山 私は大人のレジャーみたいな場所として、草刈りやチェーンソーを体験し、メカの楽しさから自然を楽しんでもらいたいです。小峰 遊び・学びを通して里山文化を次世代に伝えていかなければいけないと思います。

生活の中での里山を活用して



遊んで学んで心地よいという自然を作っていかなければならないと思っています。ただ、守ることはかなり考えると大変なので、必要だったり、楽しかったりする場所になると、人が集まるような里山としての独自のポジションになるのではないかと思います。

立花 皆さんがおっしゃるように、石坂の森は人の手を加えて、保全されていく森だと思っています。環境保全をすることは最適解がない問題に取り組んでいるわけですので、根気強く長い目で取り組んでいきます。

小峰 もし森が活用されなかったら、木々がうっそうとして動植物もいなくなつて、住宅地に動物が降りてきたり、木々がなくなること保水力がなくな

里山を 守り続けること

里山は人の手が入って 成り立つ自然

鈴木(司会) 石坂の森で活かしたい、活かすべき活用方法はありますか。

清水 たくさんありますが、堆肥に関してはカブトムシに使っているくらいなので、より活用できるようにしていきたいです。里山は資源を回転させるリサイクルの場所ある意味カーボンニュートラル^①を実現しているような場所であると思います。

きた人と直接話ができる世代は、我々が最後の世代ではないかと思っています。NPOに入ったということを父や祖父に話したときに「ああ石坂の森ね」ともその時、薪を拾いに行ったよ」と言われ、直接里山文化を聞くことができました。

暮らしに里山が組み込まれていた人から里山文化を実際に聞いて、次世代に繋いでいく、そんな遊びの場・学びの場に今後なつていけたらと思いました。

山谷 私は、NPOに入ったことがきっかけで聞くことができたが、実際に経験をしてもらう場所が必要だと思います。



富田 作った堆肥を必要としている方が引き取れる仕組みができればもったくさんの活用ができますよね。

立花 私自身、薪ストーブオーナーですので、その立場から言うとナラ枯れ木^②の活用について考えていきたいです。

1年間の活動を通して、森の生態系や生き物たちと触れ合いながら、生態系に配慮して活用していくことが必要だと実感しています。伐倒木も朽ちていく過程で生き物の住処になります。生態系の一部として、景観を損なわないう程度に伐倒木を残しておくべきであると思っています。

薪燃料は一世帯当たりワンシーズン1.5トンの量を消費します。現在、伐倒木の配布事業を行っています。ただ配るだけになってしまい、薪ストーブ

り、水害に繋がるといった場合もあります。暮らしに影響を受けると考えると、石坂の森に限らず、私たちの生活を保全していることに繋がると思いました。

人間も自然の一部として、里山と住宅地と分けるのではなく、里山を守ることが、自分の生活を守ることに繋がると気づくこと、当事者意識を持つことが必要かなと思います。

清水 当事者意識はとても重要で、何回か石坂の森に行つて、「キンランを見た」などの小ツとした経験がないと当事者にならないと思います。ここにのみは捨てられないなと思う体験が必要ですね。

山谷 生活としての石坂の森を確立する前に、やらなければいけないことがたくさんありますね。まずはみんなに愛着を持つもらう、石坂の森にただ歩きに来てもらう、そういうところから始めていく必要があるのかなと思いました。

立花 NPOに参加するまで、どこにカブトムシがいるのかと知らなかったです。活動に参加し、森に入つて「この町に来てよかったな」と思いました。森に来てもらう体験だけでも、石坂の森に対する当事者意識が持てるようになって、体験してもらったことが一番重要なんだなと思っています。

山谷 そうですね。一番伝えたいことは石坂の森に歩きに来てほしいということですね。

見山 私たちからすると親しめる森ですけど、普通の方からすると暗くて行きづ



オーナーの薪燃料への理解向上に繋がっていないという課題もあると思います。

また、ナラ枯れ木の伐倒や搬出に関しては若手世代や機材不足があります。町内の薪ストーブオーナーに参加してもらい、森の生態系を理解し、配慮して自身の薪ストーブライフに繋げてもらえたらいいなと思っています。

富田 30年くらい前は、ごみがたくさん捨ててあり、歩きにくい森でした。でも、野鳥の声がして、虫が飛んできて、懐かしい花が咲いていました。私は、この生き物を残しながら整備して、人が安心して歩ける森を作りたいと思いました。

生き物を調べると、希少種がいると分かり、どこまで人が入り、どこまで守るかの葛藤でした。

今まで希少種については、目録を作り、限られた形で報告していました。けれど、生き物を知るという機会が減つてい



らい場所に感じているかもしれません。それも魅力の一つであると思いますけど、気楽にというと難しい部分もあるのかなと思います。

気楽に来れるように森を整備したり、イベントを開催していきたいです。

山谷 NPOの中にいると周りの方は自然に関心がある人ばかりですから、私たちが先導して活動していきたいです。

小峰 今こそ、NPOに入つてよかったと思っていますが、入る前はNPOが怪しいなと思っていました。(笑)

山谷 分かります！

小峰 NPOには、自然や動植物に関する知識を持つプロフェッショナルな方が多いです。けれど、我々が特殊なわけではなくて、普通の住民が活動に携わっているんだとオープンに広げていくことで、石坂の森に足を運ぶきっかけになればいいなと思います。

用語解説

- ※ 1 カーボンニュートラル 温室効果ガスの排出量と植林、森林管理などによる吸収量を差し引いた合計をゼロにすることを指すこと。
- ※ 2 ナラ枯れ ナラ類やシイ・カシ類などの樹幹にカシノナガキクイムシが潜入し、ナラ菌を樹体に感染させ、菌が増殖することで、水を吸い上げる機能を阻害して枯死させる伝染病のこと。
- ※ 3 SDGs (エスディーゼーズ) 「持続可能な開発目標」のことで、世界中にある環境問題・貧困・紛争・人権問題等の課題を、世界のみんなが2030年までに解決して、こうという計画・17の目標のこと。

る今、どうして希少種になつてしまったのか。どうやって残していけるのだろうか。と一緒考えようという時代になったのではないかなと思います。

希少種の中でも数個体しかないものは共有は難しいですが、卵をたくさん産む個体などはどうやって次世代に残していくか、皆さんと共に考えて行きたいです。SDGsの17の目標^③「陸の豊かさも守ろう」にもつながる取り組みだと考えています。

清水 里山は、人の手が入っていて成り立つ自然だと思っています。それを人々は心地良いと思っているから残したいと思う。



①過去には車やタイヤ、家庭ごみなどの不法投棄がされていました。②ナラ枯れ被害木の伐倒講習会の様子。講師の指導の下、経験のなかった会員も木を伐倒していきます。

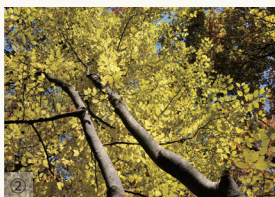


森の秋は、密かに移りゆく木の葉の彩りから始まります。

あの日に追ったトンボはいつしか朱色に化粧し、湿地の片隅で翅を休めています。陽を浴びたレモンイエローの結葉に魅せられ、森は錦秋の季節へと移ろっていきます。

林床では所々で色とりどりのキノコが顔をのぞかせ、その誘いはさながらおとぎの国の森へ踏み込んだようです。

①マイコアカネ ②黄色に染まるアオハダ ③赤い傘が印象的な「タマゴタケ」 ④紅葉した葉が魅力的です ⑤色づく秋の田んぼ通り



石坂の森が魅せる

石坂の森は、豊かな生態系を育み、ここでしか出会えない魅力につつまれています。四季折々の草花を楽しむことができるほか、生



森の冬は、凜と静まる降霜の朝から始まります。

すっかり葉を落とした冬の森では、冬鳥や木の実の彩りが心を和ませてくれます。ひと時楽しませてくれた水辺の生きもの(両生類)たちは、人知れずそれぞれの棲み処で眠りに付き、落ち葉に包まれて春を待ちます。

子どもたちは白い息を吐きながら森の小径を駆け、歓喜の声は冬空に冴えた森の木々に響き渡ります。

①ルリビタキ ②クリスマスカラーが目惹く「マンリョウ」 ③両生類の産卵調査の様子。水辺にいるサンショウウオの卵を探します。 ④冬の田んぼ通り ⑤ウスタビカの菌

森の春は、足元の小さな花々の目覚めから始まります。

森の小径をたどれば、ひっそりと咲く可憐なスミレたちに出会えます。時はスプリングエフェメラルたちが目覚める季節です。目を凝らせばこの時期ならではの生きものたちとの出会いもあります。

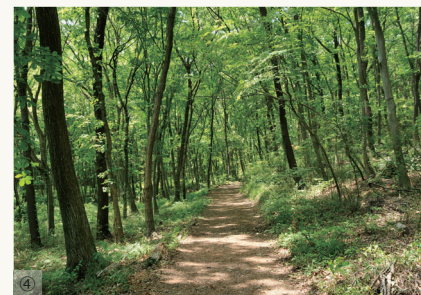
森の息吹を感じるならこの季節。わずかな時間と好奇心を抱いて歩き始めてみませんか。

①ヤマザクラの樹洞からのぞく「ホンドテン」 ②春の植物観察会に参加した皆さん ③ササバギンラン ④キンラン ⑤新緑に染まる森



四季折々の彩り

物の多様さと都心からのアクセスの良さも重なり、貴重な里山資源に触れ合えるフィールドとして愛されています。



森の夏は、木々の梢から聞こえる囁きから始まります。

深緑の森は、はるばる渡って来た夏鳥とともに様々な生きものたちが躍動する季節へと様変わりしてきました。

蝉しぐれの森に分け入れれば、こどもたちが憧れるカブトムシやクワガタムシもひっそりと息づいていることでしょう。浅黄色に煌めくチョウや森を照らすホタルもゆるやかに飛んでいるかも知れません。

①ミヤマクワガタ ②緑深まる「イヌシデ」 ③虫捕り網を持って虫を追いかける「夏の昆虫観察会」 ④夏の田んぼ通り ⑤ホタル観察会には多くの方が参加します。



石坂の森へ！

アクセス



電車利用の場合

東武東上線「高坂駅」西口下車



バス約 10 分

鳩山ニュータウン行（川越観光）
「ニュータウン北バス停」下車
「石坂の森入口」まで徒歩 5 分ほど



車利用の場合

関越自動車道
東松山 IC から車で約 20 分



無料

魅力たっぷりの 石坂の森を 体験してください！



石坂の森 里山探訪 マップ

石坂の森ののどかな風景を感じながら、
散歩をお楽しみください。
ウォーキングは健康づくりにも繋がります。

見晴らしの丘を通る 2つのおすすめルート

のんびり周りたい方向け

中の尾根道～田んぼ通り コース

コナラやクヌギの森が広がっています。田んぼ通りにはビオトープづくりが進む休耕田があります。

ハイキング慣れしている方向け

中の尾根道～東の尾根道 コース

田んぼ通りに比べ、傾斜があるコースです。道中にはテータマツ林や活動広場があります。

散策するときの注意事項

- ✓ 長袖や長ズボンを着用し、できるだけ肌を露出しないようにしましょう。
- ✓ サンドルやヒールは避け、運動靴など歩きやすく滑りにくい靴を履きましょう。
- ✓ 雨天時や雨天後翌日は足元が悪くなっている場所があります。また散策路は、自然の状態をできる限りそのまま残しています。場所により勾配が急なところなどがありますので、注意して散策してください。
- ✓ 石坂の森は動物や虫たちのすみかにもなっています。ごみは捨てずに持ち帰りましょう。
- ✓ 希少動植物を採取または捕獲しないでください。



ウラゴマダラシジミ



オオムラサキ



ゲンジボタル



アオジ

生き物ウオッチング



フデリンドウ



ヤマホタルブクロ



ヤマユリ



ミゾソバ

草花ウオッチング

② 活動広場

空が見える開放的な活動広場。ベンチテーブルが整備されています。休憩やお昼にぜひご利用ください。



① 見晴らしの丘

標高140メートルのおすすめスポット。奥多摩、外秩父、浅間、日光連山など山々を一望できます。





NPOの活動に参加しませんか

散策道の整備や草刈り、枯損木の伐倒、希少動植物の保護・保全、イベント等の活動をしています。初心者の方も大歓迎！自然の恵みを次世代に繋ぐため、一緒に活動しませんか。



活動の様子は
こちらから！

■問合せ NPO 法人里山環境プロジェクト・
はとやま 代表 鈴木 ☎ 090-1126-7686

「里山再生」の想いは 叶う！



山村学園短期大学コラボ「里山保全体験学習・伐倒体験」

これからも守り続けるには、 みんなの理解と協力が必要！

しかし、里山を管理をする方が少なくなっていることや高齢化など、里山を守り続けるには課題もあります。ぜひ、町民の皆さん、特に次代を担う若い世代の皆さんにも参加してほしいと考えています。

里山を保全・整備することは、SDG's、カーボンニュートラルなどにも繋がる取り組みです。環境保全という、難しいと考えずともいいですね。

まずは、石坂の森に来ていただき、ウォーキングや自然観察などに参加していただき、里山を体験してください。

「里山っていいな」、「自然はいいな」と思うことができれば、きっとこの自然を、里山を大切にしたい、守りたいという気持ちになってもらえると思います。

町では、今後とも里山保全とともに、里山の利活用も含めた取り組みを進めていきます。

里山環境を守り続けるために

町内外からたくさんの方が散策できるような場所になってきました。

また、もともと里山を理解してほしいということで、町やNPO主催によるウォーキングイベントや自然観察会なども多数行っています。

さらに、持続可能な里山を目指すため、資源循環の取り組みとして、伐倒木の無償配布（薪ストーブなどに利用）、堆肥作りなどの事業にも取り組んでいます。

私たちは、この里山風景を当たり前だと思っていますが、散策道の草刈り、枯れ木の伐倒など、人の手によって適度に管理をしないと、木々が生い茂り、道は通れない状況となり、ごみが捨てられ、荒れ果てた森になってしまいます。

かつては、そのような状況になったこともありました。しかし、町はもともと「NPO法人里山環境プロジェクト・はとやま」や「地域のボランティアの皆さん」の里山を守りたい、「里山を次世代に伝えたい」という、強い「想い」で保全活動等に取り組んできた結果、現在は

私たちは、この里山風景を当たり前だと思っていますが、散策道の草刈り、枯れ木の伐倒など、人の手によって適度に管理をしないと、木々が生い茂り、道は通れない状況となり、ごみが捨てられ、荒れ果てた森になってしまいます。

かつては、そのような状況になったこともありました。しかし、町はもともと「NPO法人里山環境プロジェクト・はとやま」や「地域のボランティアの皆さん」の里山を守りたい、「里山を次世代に伝えたい」という、強い「想い」で保全活動等に取り組んできた結果、現在は

この風景は当たり前ではない

「石坂の森」は、まるで里山のフィールド・ミュージアム（屋根のない博物館、一定の地域を博物館として捉えること）のような場所です。

鳩山町では、住宅地の鳩山ニュータウンから少し歩けば、緑あふれる里山である「石坂の森」があり、多様な動植物と触れあうことができます。

石坂の森は フィールド・ ミュージアム